

**中東情勢（パレスチナ問題）に関する安保理公開討論
辻外務大臣政務官ステートメント（仮訳）
（平成31年4月29日（月））**

- この重要な討論を開催いただきありがとうございます。また、ディカルロ国連事務次長及びEco Peace Middle Eastのブルムバーグ氏及びマジュダラニ氏の有意義な御説明も感謝します。
- 日本は、イスラエルと将来の独立したパレスチナ国家が平和裏に併存する「二国家解決」を引き続き支持する立場です。この姿勢に変わりはありません。
- 中東和平を巡っては、現状の政治プロセスの停滞を憂慮しています。中東和平の実現は容易ではありませんが、関係者間の直接対話を再開し、和平プロセスを前に進めることが重要です。
- その点、米国の継続的な関与は重要であり、そう遠くない将来米国が提案する和平案が、イスラエルとパレスチナの直接交渉の建設的な基礎となるものであることを期待します。
- 紛争は信頼醸成と交渉によって解決されるべきです。我々は、無辜の市民に対する暴力及びテロを強く非難します。
- 日本政府は改めてイスラエル政府に対し、今月承認した建設計画を含め、「二国家解決」の実現可能性を損ねる入植活動の完全凍結を求めたいと思います。

- 「力による一方的な現状変更」はいかなる場合も認められません。日本は、イスラエルによるゴラン高原併合を認めない立場であり、この立場に変更はありません。日本は、「法の支配」を重視しています。「力による一方的な現状変更」についての問題は、国際社会により適切に対処されるべきです。
- 日本は、引き続き、「平和と繁栄の回廊」構想とその旗艦事業である「ジェリコ農産加工団地（JAIP）」等の独自の取組を通じ、当事者間の信頼醸成を促し、和平の実現に資する環境作りに貢献していきます。イスラエルの日本の取組に対する継続的な協力を高く評価します。
- 最後に日本の UNRWA への継続した支援を改めて強調します。UNRWA は、人道的な目的のみならず、中東の安定にとっても極めて重要です。このことは、私が先日出席した UNRWA に関する閣僚級戦略対話でも改めて確認されました。本年、日本は、既に約 3 2 0 0 万ドルの支援を実施しました。また、日本は、東アジア協力促進会合（CEAPAD）の枠組を通じてアジア諸国の関与を促すことにより、UNRWA のドナー・ベースを拡大するために尽力してきています。今年の夏、CEAPAD 高級実務者会合をヨルダン川西岸地区で実施する予定です。

御清聴ありがとうございました。